

昭和前期横手の俳句界



明治時代、横手には戸沢百花羞の葛水会、安藤和風に選を依頼する月碎会などがあり活発に活動していました。しかし、大正時代に入ると新傾向俳句の流行の余波からか、停滞したようです。昭和2年6月、俳星派の俳人竹貫静山が横手裁判所に異動、妻せき女、長男稔也を伴い赴任します。静山の指導を得て昭和3年、菓子哀鹿は田鎖涼花、空人父子らとともに横手吟社を結成しました。

昭和3年の石井露月・島田五空の相次ぐ死。翌4年の加藤蕪江の俳誌『青雲』創刊による県内日本派の分裂。当初『俳星』とも交流のあった横手吟社の俳人たちは、やがて『青雲』一辺倒になります。哀鹿が残した『青雲』などの資料からは、戦時下でありながら俳句に親しむ横手吟社同人の姿が見てとれます。また、蕪江はじめ、戸島露十、船山黙雷など青雲派の俳人からの書簡も残されており、遠隔の地にある俳友との交流の有り様を知ることが出来ます。

あきた文学資料館
新収蔵資料展〈一〉

開催期間：令和7年3月15日（土）～5月11日（日）

開館時間：10時00分～16時00分

休館日：毎月曜日、および5月4日～6日は休館

場所：秋田市中通6-6-10 あきた文学資料館

電話：018-884-7760

入館観覧：無料

2025
3.15
Sat
—
5.11
Sun

昭和前期 横手の俳句界

あきた文学資料館菓子哀鹿旧蔵資料展

明治時代、横手には葛水会、月碎会などの吟社があり活発に活動していました。しかし、大正時代に入ると横手の俳句界は停滞したようです。やがて1928年、菓子哀鹿は田鎖涼花、杵人父子らとともに横手吟社を結成しました。

同じ年、石井露月・島田五空が相次いで没します。露月・五空没後の1929年5月、俳星の俳人のうち露月を師と仰ぐ秋田市周辺の俳人たちが、俳誌『青雲』を創刊しました。能代市の俳星と秋田市の青雲の応酬が続き、明治以来の秋田の日本派俳句は大きく揺らぎます。一方、昭和初期の俳壇には新興俳句運動が起こり、県内でも同調する若い世代が台頭します。しかも時代は、日本が軍国主義へと急速に傾斜を強めていくところです。

こうした時代の潮流に対して横手の俳人たちはどのように振る舞ったかを、新収蔵資料によってたどります。

新収蔵資料展関連講演会

『昭和前期横手の俳句界』

昭和前期の横手市の俳句界に起こった若い俳人たちの行動を、戦時下の世相とともに読み解き、いつの時代も変わらない若者の文学的情熱の跡をたどります。

【講師】当館顧問 京極雅幸

【日時】4月5日(土) 13時30分より

【定員】20名(事前申し込み必要)

【料金】無料

◎申込方法 窓口または電話でお申し込みください

新収蔵資料展ギャラリートーク

当館職員が展示資料の説明をいたします。所要時間は30分程度です。ご希望の方がいらっしゃれば随時行っておりますので、ご遠慮なく職員にお声掛けください。

次回展示

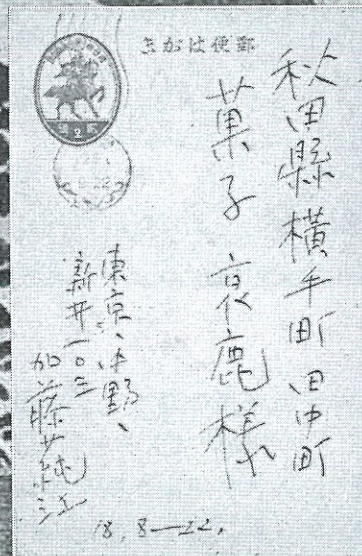
新収蔵資料展〈二〉

「小笠原洋々旧蔵資料展—小笠原洋々の時代」

期間：2025年 6月 1日(日)

～2025年 7月31日(木)

菓子哀鹿が『青雲』に寄って横手吟社を運営していたころ、露月・五空没後の動揺を憂えた小笠原洋々は俳星に復帰します。北海道に住みながら、1936年より俳星第五代主幹に就任、戦時下の休刊期間を挟み、1950年まで俳星を発行し続けます。



上：菓子哀鹿
左：1943年8月22日付け菓子哀鹿宛て加藤純江がき
背景：哀鹿愛蔵本書影



あきた文学資料館
開館時間…10時00分～16時00分
休館日…毎月曜日、
および5月4日～6日は休館
場所…秋田市中通6-6-10
電話…018-884-7760
入館観覧…無料